

令和5年度 第4回太宰府市観光推進基本計画策定協議会 会議録

1 開会及び閉会に関する事項

- 1 日 時 令和6年3月27日(水)
15時00分 開会
16時30分 閉会
- 2 場 所 太宰府市役所 4階 大会議室

2 出席委員の氏名(15名)

- | | |
|-----|------------|
| 会 長 | 竹川 克幸 |
| 副会長 | 大江 英夫 |
| 委 員 | 寺田 正典 |
| 委 員 | 高田 由美子 |
| 委 員 | 高山 博子 |
| 委 員 | 草場 康文 |
| 委 員 | 松尾 俊裕 |
| 委 員 | 菊本 亮 |
| 委 員 | 的場 宏明 |
| 委 員 | 大庭 佐七 |
| 委 員 | 古澤 輔(代理出席) |
| 委 員 | 冨永 誠治 |
| 委 員 | 古賀 正之 |
| 委 員 | 井手 麻由美 |
| 委 員 | 簾内 彩佳 |

3 欠席委員の氏名(6名)

- | | |
|-----|---------------|
| 委 員 | 野田 智子 |
| 委 員 | 菊武 良一 |
| 委 員 | 実藤 裕久 |
| 委 員 | 富田 慎志 |
| 委 員 | 松澤 尚史 |
| 委 員 | 吉田 憲和(代理出席あり) |

4 委員を除き会議に出席したものの職・氏名

太宰府市

観光経済部長	友添 浩一
観光推進課長	西山 英毅
観光推進係長	田上 真也
観光推進係	有田 ゆきな
観光推進係	伊藤 裕貴

株式会社サーベイリサーチセンター

企画課長	伊東 巧
企画課担当	下村 直輝

5 協議会次第

1. 第二次太宰府市観光推進基本計画 素案 パブリック・コメント実施結果について
2. 第二次太宰府市観光推進基本計画（素案）（パブリック・コメント反映分）について
3. 今後のスケジュールおよび計画公表までの流れについて
4. その他

6 内容

○事務局

(開会挨拶)

○竹川会長

皆さんこんにちは。

(本会議の次第について説明)

本日が、この第二次太宰府市観光推進基本計画策定協議会の最終の会議となりますので、皆様の活発なご意見が出ますように、それと花が咲いて実りある会議であればと思いますので、どうぞご協力よろしくお願いいたします。

それでは、12月に実施しました第3回の策定協議会でのご意見を反映しまして、主な修正点変更点、特に持続可能な観光地域づくりについてのご意見等が出ましたので、その点に関して事務局からご説明お願いいたします。

○事務局

(資料説明)

○竹川会長

ありがとうございました。

ただいまの事務局の説明につきまして、ご意見、ご質問、ご確認等ございましたら、皆様方からお願いいたします。皆様の方から何かございますか。

私の方から前回の会議の補足をいたしますと、持続可能な観光地域づくりの視点というのは、この計画策定における命題の1つでもありました。短期的な観光ビジネスも大事ですし、行政計画では3年から5年という長さのものが多くありますが、やはり太宰府は1300年以上の歴史を持つ都市ですので、10年、50年、100年といった中長期的な視点をもった地域づくりとか風致づくりが必要だと考えます。太宰府市民遺産にも認定されている竹の曲などの伝統的な芸能や宝満山のヒキガエルなどの、今まであまり観光の対象でなかったものが文化観光の対象となってきて、それがやがて持続可能な地域づくりに発展するという観点も入れていきたいと思っていますので、そういう意味でもこの章をたてていただいております。

あわせて歴史的記述の部分も、私が大分ご意見をして、文化財の方、観光推進の方に入れていただき一緒に作りました。やはり歴史都市、文化都市である太宰府の観光の歩みは、他の地域よりも深いものでございますので、その流れがわかるような視点でこの計画に入れていただきました。あまりここまで長く書いてあるものは他の自治体の計画ではないかもしれませんが、これも太宰府の特性だと思いますので、色々ありがとうございました。

皆様そういった視点で何かお気づきの点がございましたら、頂戴したいと思います。

○委員

年表について、1975年だったと思いますが、山陽新幹線開通で、新幹線が東京から博多まで

繋がったっていうのが、観光地のにぎわいの意味でも影響があったと思いますので、入れたほうがいいのかと考えております。以上です。

○竹川会長

貴重なご意見ありがとうございます。確かに博多駅への新幹線の延伸や 2011 年の九州新幹線の全線開通などの影響により、太宰府の観光においても、色々な地域から観光客が来られるようになったという視点は追加していただきたいですね。

他にございますか。よろしいですかね。

この後の、説明をする中でお気づきの点がありましたら、またご指摘なりご意見をいただければと思います。

では次に、次第の 1 及び 2 は連続して、関連していく内容になりますので、続けて説明をしていただければと思います。先日実施しました、第二次太宰府市観光推進基本計画素案に関するパブリック・コメントの実施結果と、そのコメントに対応する計画への反映内容について事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局

(資料説明)

○竹川会長

事務局より、パブリック・コメントで指摘や確認があった部分の中でも文言等の軽微な修正点等の説明がございましたが、何かお気づきの点やご確認がございましたら、ご発言お願いいたします。併せて、用語解説を巻末につけておりますので、ご確認いただければと思います。用語解説外の用語で、委員の皆様でも難しい用語や補足説明の必要がある用語があれば、ご意見を頂戴したいと思います。私もやっとな DMO とかに慣れましたけど、意外と KPI とかも分かりにくい方もおられるかもしれませんので、そういう説明をさせていただいています。

○委員

この用語解説に載っている文言については、アンダーラインを引くとか、用語解説に載っていますという表示をした方が分かりやすいかと思われました。以上です。

○事務局

ありがとうございます。表示を追加します。

○竹川会長

他にございませんでしょうか。また、続けて説明を事務局にさせていただきますので、またお気づきになられましたら、次の質疑のところでご発言いただければと思います。

では事務局より引き続きお願いいたします。

○事務局

(資料説明)

○竹川会長

ありがとうございました。

事務局より、パブリック・コメントで頂戴した意見の中でも大きなご指摘を踏まえた修正案、対応案のご説明だったかと思われます。

以上、戦略や取り組みのところが追加になったところもございますので、委員の皆様から他にお気づきの点とか、ご意見、ご質問等ありましたらご発言お願いいたします。

○委員

DMO の件で、先ほど「行政の補助金に依存せずに」という観点について触れられていましたが、65 ページの主な取り組みか検討事項において、マーケティングと自主財源について表記すべきかと思われます。そもそも DMO の目的が、マーケティングしながら地域経営を行っていくということが求められていますし、補助金に依存しないという点を踏まえるなら自主財源について検討すべきなので、その部分を盛り込むべきだと感じました。

○竹川会長

他にございますか。何か皆様方からお気づきの点ございませんでしょうか。皆様からの素案に対するコメントやご意見でも結構です。

○委員

用語説明を増やす方向ということであれば、もうかなり一般化しているとは思いますが、ここでしっかりインバウンドとオーバーツーリズムについて定義しておくのはいいかなと思います。どういう方がこの計画を読むのかを想定しているかにもよりますが、幅広く市民の方々にも読んでいただくものだと思いますので。根本的すぎてかえって中途半端な定義にすると大変なのかもしれないですけど。

○竹川会長

事務局、ご検討いただいてよろしいですかね。

にわかにもた、外国の方が増えておられます。宗像市の宗像大社にも、中国や韓国の方が最近は多く来ています。ただ、日本人と観光行動が違いまして、神社の奥までは、そういう歴史のそこには行かないで、海を見たり、昨日見たのは古い建物をただ写真に撮るというか、宗像大社の目の前に古い建物があって、そこに写真を撮りに行かれたり、貴重な世界遺産の沖ノ島の神宝館とかそういうところには行かれないようできて、昨日の会議でもそのような点が話題になりました。少し我々と違う行動をアジアの方でもされるようです。

皆さんから他に何かございませんか。あともう一つ説明が残っていますので、それを踏まえて全体でお話をしましょうかね。

最後、事務局の方からご説明お願いします。

○事務局

(資料説明)

○竹川会長

ありがとうございました。

今の事務局からのご説明を受けまして、何か皆様の方からお気づきの点、全体的な観点からのご意見、ご質問あればお聞きしたいと思いますので、何かございましたら、挙手の方でお願いいたします。

○委員

せっかくなので、47 ページでちょっと質問というか確認です。アクティブシニアを活用したインバウンド向け観光というのは、アクティブシニアに対する国外プロモーションなどというターゲットの話なのか、それとも観光プランのような形で、太宰府のアクティブシニアを活用した何かプランを作るという話なのか確認したいです。

○事務局

後者です。

○委員

それならば、観光プランであるという説明を加えられるといいかなと思われまます。

○事務局

こちらについては日本の生活体験とか、あと太宰府の魅力、そういったものを体験していただくために、地域のアクティブシニア、50代60代ぐらいを想定しておりますけれども、普段の生活様式、生活体験などを提供できる方と、そのような観光に関心のあるインバウンド観光客の方のニーズをマッチングさせるという事業になっております。先ほどございましたように、後者のように、ターゲットはインバウンド観光客、そしてホスト側がアクティブシニアです。

○竹川会長

委員からも意見が出ましたが、このアクティブシニアの捉え方について、より詳細に表示すべきだと考えます。アクティブシニアの方は国内旅行では、主にターゲット層として認識されていますが、今ご説明がありましたように、案内をする立場の人たちになりうる人材でして、体験観光プランにそういう方達を活用するってことは、新しい事業でもございますので、少し丁寧にご説明していただけるといいかなと思いました。ありがとうございます。

他に皆様から何かございませつか。

もう一つ補足しますと、オンラインツアーとかではなく対面でといった時に、人とご飯を食べたり話をしたりする機会が、太宰府は他の観光地に比べて弱いと感じる点もございませつか。外国の方にしてみませつかは、そうだと思っ点もございませつかは、様々な経験をされた方に貴重なア

ドバイスを聞くということは大事かと思えます。

大江副会長、その点いかがですか。

○大江副会長

太宰府で歩いて史跡をご案内する「歩かんね太宰府」という NPO 法人がごございますよね。80 代まで現役で動いていらっしゃる方がいらっしゃるということで、皆さんもう少し観光に協力したい、地域に協力したいっていう、本当なら現役を退いたけれども地域に貢献したいという方はたくさんいらっしゃるの、そういった方たちにそういう場を提供する機会が充実すると、もっと多くの方たちに参加していただけるのではないかなと思いますね。

○竹川会長

ありがとうございます。最後の委員会になりますので、他にも皆様のお仕事などの知見からご意見がございましたらお願いします。

先ほど寺田委員からもインバウンドとオーバーツーリズムという用語について意見がございましたが、現実として太宰府も観光客数が戻りつつあります。

何かその辺り事務局からごございますか。特にオーバーツーリズムは新しいというか、前の時代にあまり想定されていなかった視点だと思いますが。

○事務局

オーバーツーリズムに関しては 7 ページにもあります通り、国を挙げて対応していこうという流れがごございます。国からオーバーツーリズムに関する対策に補助を出そうということで、先駆モデル、いわゆる先進的なモデル地域を 20 地域選定しようという動きが先般ありました。本市も、オーバーツーリズムは喫緊の課題だと考えておりました、それに応募したのですが、残念ながら今回、第一次からは漏れたという状況であります。ゴミ・たばこのポイ捨て問題などについて 51 ページにも書いておりますが、そういったことに対応するためにも、太宰府市だけの財源では限界があるというふうに認識を持っておりますので、国や県と連携し対応できるように、我々もしっかり準備をして参りたいと思っております。

○竹川会長

ありがとうございます。少し補足しますと、市民意識調査アンケート、実は私も今年初めて協力したのですが、その中に観光情報だけではなくて、いわゆる渋滞に関する道路改善に対する市民の関心がとても高いです。

その結果を小学校区などのコミュニティー単位で分析すると、いわゆる天満宮参道に近いところの小学校区では観光や渋滞に関するご意見が出ています。そういった住民の方との日頃のやりとりなどもこのオーバーツーリズムの対応に少し入れていく必要があると感じています。観光地だからこそ街づくりや市民サービスの向上と、観光以外の部分に出てくる都市計画とか、そのような部分にも関わることが、持続可能な観光地づくりだと思います。その点も少し加味していただければと思います。反対に私が少し心配しているのは、オーバーツーリズムオーバーツーリズムと言い過ぎてしまい、観光に関するマイナスのイメージがついてしまうこと

です。

○委員

先ほどオーバーツーリズムという言葉の定義づけを改めてと意見したのは実はそういうところでして、海外からのお客さんがとても増えた時期に、観光公害という言葉が使われていました、これはまずいなという気が私にはして、オーバーツーリズムという言葉の方が優位に使われるようになって、大分よくなったなと思いますが、それでもそこには迷惑というニュアンスがありまして。

僕も都府楼から太宰府までバスに乗って帰ろうと思ったら、1時間ぐらいかけてやっと五条についたってということがあったりしました。それから最近特に問題になっているのは、竈門神社の方ですね。アニメキャラクターが有名になって以降、よりあそこが混むようになって、道が一本なのでバスも時間がかかるし、タクシーも途中で止まって降りて歩いてもらう必要があるという状況ですので、そういう問題を都市計画としてやるのは予算措置もあるし大変だと思いますが、そういう問題の中で、我々はそのオーバーツーリズムという言葉の起点にして、地域住民の皆様との協力をお願いしつつ、前向きにとらえたいというニュアンスはよりアピールした方がいいかなと思います。

海外からのお客さんに向けて、ビデオを作ってそれを見ていただくというのが成功しているという他の地域の事例をこの間テレビで見て、こういうやり方もあるのだなとは思ったのですが、観光団体を呼んでくる方々の方でも色々取り組まれているらしいですけど、マナーの問題には格差もあるので、大変かと思います。

それから、先ほどの車の件で言うと、最近レンタカーが増えていますよね。それによりコロナ前の道の混み方とはまた異なるレベルになってきているので、これは都市計画的な方向でしょうけど、そのような状況がある中でどう前向きにとらえるか、我々としては、特に海外の方は天気が悪い日や夏の暑い日も来てくれるので非常にありがたいですが、そのニュアンスをどううまく落とし込むかっていうのは一つ課題としてあるかなというふうに思い、先ほど申し上げました。

○竹川会長

貴重なご意見ありがとうございます。

やはり伝え方も課題ですね。国とか言語によってはニュアンスが変わると、観光公害も然りですけれども、マイナスイメージに捉えられ、風評とは言いませんが、「太宰府に行くときやっぱり渋滞するね」という意見をよく聞きますので、そこをいかに逆手にとると言いますか、「やっぱり人が多く来ている、賑わっている町だ」みたいな印象に持っていくことは必要なことだと思います。

そういう意味で先ほど委員がマーケティングという言葉が言われましたけれども、最近アンケートだけではなくて、来られた方の観光行動とか、どのように動いているかみたいな分析や、それを踏まえた上でのゴミ箱の設置とか人の誘導が重要かと思われまます。特に最近カーナビが普及して同じ道しか示さなくなり、みんなその通り同じ方向にいき、それが渋滞を引き起こすことも実証実験などでわかってきていますので、今後そういった取り組みを、太宰府の場

合は補助金をとられてでもいいので、そういうモデル地区になっていくことになるかと思えます。大学の先生とか研究機関だけではなくて、行政の方も調査研究を市民と一緒にやっていく、企業の方とやっていくことが観光の世界では必要かと思えます。貴重なご意見ありがとうございました。

○委員

オーバーツーリズムというのはやはり、来る時期が集中していることが大きな問題だと思うので、時間帯とか期間によってバスなどの値段を変えてみたりしたら、もう少し分散できるのではと思いました。

○竹川会長

チケットは時間帯や時期に応じて、特定加算することも当然あるので、閑散期に来ていただけるような価格設定により分散を図るということは確かに必要だと思います。そういう意味で太宰府の観光カレンダーは毎月出ていますが、年間単位や何年先のイベントとかで、長期で考えていくことも必要です。私が太宰府にいて一番困るのは、行事がすごく重なって、この人口7万人の都市でも調整できてない部分がとても多いので、それを何とか構築できないかっていうのを色々な場で言っています。スケジュール調整に関するデジタルサービスが発展していても、市内の行事が大きく重なるということは課題の一つかと思えますので、そういったところも改善していきたいですね。貴重なご意見ありがとうございました。

他に何かございませんか。

○委員

資料の細かいところで恐縮ですが、4ページ目の「菅原道真公薨去 1125 年、式年大祭（2027 年）」の正式名称は、「菅原道真公 1125 年、太宰府天満宮式年大祭」と言いますので、念のためお伝えしておきます。この薨去と入っていた方がわかりやすい気はしますが、正式な文章をお伝えいたしました。

3 ページの一番下で、「太宰府天満宮神幸式」とありますけれども、37 ページと同様、一応正式名称が「神幸式大祭」ですので、大祭を加えていただくと幸いです。

41 ページ記載の九州国立博物館「夜の九博」について、最近は「夜の九博」をされているか疑問なのですが、九博さんにはここに載せることは同意をとられているのかなどが気になりました。

○事務局

調整いたします。

○竹川会長

文言もそうですし、掲載する図版とか写真関係とか掲載許可が必要な場合も、資料ですので公開する部分があるので、ご確認よろしく願いいたします。ありがとうございました。他に

皆様の方からありますでしょうか。

○委員

計画素案7ページの本文にて県の動向についても記載いただいておりますが、現在、2023年度が最終年度であり、次期指針が現在策定中ということですが、年度内に公表する予定になっております。内容につきましては今週中には、ホームページの方に公表させていただく予定ですので、次の議題のスケジュールとかの関係もあると思いますが、公表済みの内容を反映していただいても良いのかなと思っております。

○竹川会長

ありがとうございます。他にございますか。

福岡県の話題が出たので、40ページに日本遺産「西の都」の活用という部分がございますけれども、私事で恐縮ですが、私今「西の都」日本遺産のコーディネーター役を委任されまして、もう10月ぐらいからやっております。実際に今年に入って色々とツアーを造成されておられまして、モニターツアーも始めました。

太宰府市だけではなく、広域に筑紫野市、春日市、大野城市、那珂川市、宇美町、県を越えて、佐賀県基山町まで跨っておりますけれども、この広域型になったことをまだ十分に生かしておりません。繋がりが広がったことを生かしていくべきという課題がありますので、今後、認知度アップも含めてご協力お願いいたします。

○委員

コーディネーターとして文化財保護課から、いろいろとお世話になっているところではございますけれども、県の観光局としましては、やはり今おっしゃられたその広域という観点から、太宰府に来ていただいている方を、日本遺産の他の地域にも回っていただくということも踏まえまして、今福岡のDC、デスティネーションキャンペーンの中で「よかバス」という事業をやっていますが、これを西の都エリアにも広げられないかというふうなところを調整させていただいております。ぜひそういったところにも、アドバイス等いただければと思っておりますし、先ほど言われたオーバーツーリズムにも、多少役に立ってくれるのではないかなと期待しているところでございますので、ご協力いただければと思っております。よろしく申し上げます。

○竹川会長

その点は、59ページにあります通り、日本遺産の近隣自治体とも連携・交流していくということで記載しております。最近、旅行雑誌でも日本遺産をテーマとしたものが出ました。日本遺産の認定を受けている104ヶ所すべてと繋がることは難しいにしても、九州だけでも日本遺産の繋がりを持つところが出てきていますし、歴史的な観点ではやはり九州の中心は太宰府ですので、それはその地の利とか、歴史の利は生かすべきだと思いますので、あわせて紹介しておきます。

他に何かございますか。

○委員

調査結果のデータの確認ですが、29 ページのリポート率の 54.4% っていうのは、19 ページの③の 58.1% とは別の指標が使われたということですか。

○サーベイリサーチセンター

19 ページの③では、福岡に来た外国人観光客の中でさらに太宰府市を訪れる予定があると回答した人の割合を載せておりました、29 ページに載せている KPI の令和 5 年度実績値とはまた別の数値となっております。17 から 20 ページにまとめている調査結果には、リポート率の結果をグラフとしては載せておりませんでしたので、追加するかについては、事務局と検討させていただきたいと思います。

○委員

KPI にリポート率を設定している点についてお伝えしますと、太宰府駅は県民の利用もかなり多いので、聞き取り方法によっては KPI の達成のハードルがかなり高くなるかと考えられます。そのあたりも考慮して設定されるのが望ましいかと思われま。

○竹川会長

ありがとうございます。口コミも含め、一度訪れたことのある人からの評価はとても大事です。近年、その評価が SNS 等で拡散していく場合もありますし、それは良い方だけではなく悪い方に広がる場合もございます。そのような点からも大事にしていきたいデータだと思います。

先ほど「夜の九博」の話が出ましたので、41 ページのところについて、前回の計画を策定した時も課題だったのですが、要するに観光消費が伸び悩んでいる点ですね。もともと歴史的に言うと太宰府は宿場町だったのですが、観光交通の発達によって日帰りのものに変質していることから、夜の観光や飲食等のイメージが薄い状況ですので、やはりそういったもともとあった宿泊機能、休泊機能を戻していく、ホテルカルティアのように古民家や空き家を活用するなどの動きが進みつつあります。また太宰府には学びに来る方が多く、文化観光の課題ですけど、何日間か滞在して写真を撮ったり、絵を書いたりされる方もおられます。前日入りして取材をしたり、そういう方たちが太宰府に泊まったり、これは近隣の二日市温泉でもいいですけども、公的施設の改修や空き家の活用などにより宿泊機能を取り戻していくこと、ナイトタイムエコノミーを増やす努力を、公共でもしていただければと思っております。

他に皆様の方からございませんか。よろしいですかね。

では今出たご意見を踏まえましてですね、また事務局の方で取りまとめていただければと思います。どうもありがとうございました。

では次の議題に移ります。続きまして次第の 3 ですね、今後のスケジュール及び計画公表までの流れについて事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局

(説明)

○竹川会長

ありがとうございます。

ただいまの事務局のご説明につきまして、何かご意見、ご質問、ご確認等はございますか。皆様、よろしいですかね。

会長一任で、事務局と確認させていただいて、皆様のご意見を反映した計画をまとめていきたいと思っておりますので、ご了承いただければ幸いです。ありがとうございます。

あと全体を通じて、皆様、これが最後の委員会になりますので、何か皆様の方から、今後の太宰府市の観光に対してご意見があれば承りたいと思っております。何かございませんでしょうか。よろしいですか。

では大江副会長からお願いします。

○大江副会長

長時間にわたりいろいろご意見いただき、ありがとうございました。

実感としまして5年経ったのだなという、第一次の計画が策定されて5年ですよ。策定後に、令和の所謂ブームが起こって、これから先に期待をしていたら、コロナ禍で観光が落ち込んできたので、同じようなことが起こらないように、天満宮にもお祈りしたいと思っています。皆様方のおかげでいい計画ができたと思っておりますが、パブリック・コメントにもありましたように、今後これをどう実行に移していくかということが非常に大事なことであります。実行する組織として65ページの中にあります通り、自立型の地域観光組織体制を作り上げて、それが実行計画を作り実行していくということで、太宰府の観光がよりよいものになっていけばいいなと思っております。

以前も少しお話ししましたが、私は九州観光推進機構の設立に関わった者ですけども、観光を官民一緒になってやるという組織として作られたのが九州観光推進機構（※現：九州観光機構）です。というのも官だけでやると、議会対策とか予算の問題に対してなかなか自由に動けないので、共同してやるという意味で作られたと思っておりますが、お金は3分の1が官から出て、人は3分の2が民からという体制で動いています。民間としてのマーケットに合った運用をどうしていくかということが大事だということで作られたものですから、ぜひDMOもそんな形で、民間のお客様の目を見た、もしくはマーケットをとらえたような組織ができて運営していくように、それは先ほど委員がおっしゃいましたが、時間帯で値段を変えるなんて公では難しいですよ。民間だったら航空会社も時期によって値段が違いますし、観光の場合は来訪客数をフラットにするかということが大事ですよ。所謂閑散期にいかに来てもらうかという、オーバーするところはいかに少なくするかという、キャパシティに合ったお客様に来ていただくという、そういうことが一番大事ですね。

私も観光の仕事に長く携わりましたが、例えば1千名の団体、もしくは1万名の団体がドンと来るのをいいと思われる方は多数いらっしゃるんですけど、一番大変です。というのはキャパシティを超えていますから。一番いいのは50名のバスにずっと毎日来てもらうという、そうすると50名の受け入れができるような体制があれば、それで1年間ずっと続けられるわけです。

よね。そういった考え方をやる、受け入れとしてどうしていくかということも民間の考え方だったらできるので、民間の構造を、今度は官の方は受け入れ体制、道路も含めてどうしていくかということで、官民一体となった受け入れ体制ができて、それがより良い太宰府の観光に繋がればいいなというふうに思った次第であります。せっかく皆様方も企画、もしくは計画に関わっていただきましたので、少なくともこの二次計画の5年の間は、太宰府に熱心に来ていただいて、様子を見ていただくようお願いしたいというふうに思います。ありがとうございました。

○竹川会長

ありがとうございました。

では最後に提言したいこともありますので、お時間をいただければと思います。

まずは本当に皆様、4回にわたりそれ以外でもメール等も含めて、ご審議賜りましてありがとうございます。また事務局含めて、サーベイリサーチセンターさんも色々な調査を含めて取りまとめていただいて感謝申し上げます。

実はこの計画ができてからがスタートでありまして、今日は終わりではなくて始まりになります。前の計画を作った時にいきなり令和とコロナという良いことと悪いことが立て続けに来まして、我々はそれらの大きな変化を乗り越えて今がありますけれども、69ページにはステークホルダーというか、色々な関係機関を一覧表で入れていただいています。役所は人事異動などで担当者が変わりますが、この計画に携わった人は、何らかの立場で関わっていただきたいというもありますし、私は幸いにも大学の仕事で観光が仕事というか調査研究になっているので関わっていくと思いますし、一次から二次というふうに続けて関わらせていただいていますので、そういった人の持続可能性のように、計画をしっかり実行していくのも人間でありますし、幾らAIができて、こういうことを維持、担保していくのは、我々人間の役目だと思います。観光もそういったことを、感動や喜びが分かち合えるのは人間の社会だからだと思いますので、今後の推進体制を、DMOなり整えていくということで、様々な組織とのつながりをもっと活用していくべきだと私は感じております。事務局に、皆さんも含めて、色々な業界団体の方、民間事業者の方、市民の方、学生の方が関わる組織が多くありますので、ここをうまく観光に生かすような取り組みを、市役所の方も含めてしていただければと思っています。

最後、少し嬉しいことがありまして、先日太宰府天満宮の曲水の宴に、私の教え子が姫役で祭礼してくれたので私も関係者として祭礼させていただいた際のことですが、曲水の庭で我々関係者、家族の方と写真を撮ったりする後ろに、写真を撮る観光客がずらっとスタンドに来られていまして、コロナ禍が明けて人々が太宰府にしかない魅力に気付いてきたのか、そういうものに興味があるから来られているのかは別としても、観光行動の一つになっていると感じました。その魅力は何かと私も思ったら、その時の曲水の宴にあったのは春を告げる、その時は桜も咲いてないですし、まだ梅が咲いていましたけど、太宰府にまだ四季が、気候変動があったとしても、そういう季節であり時節があります。我々が今失いつつある季節柄とか時節柄とか、そのようなWEB上ではわからなくなっていることが、しっかりと実社会なり、その空間なり、景色なりに残っていることを、特に外国の方が言われます。太宰府に来てうちの留学生なんかも季節がとてもいいと、梅が咲いている、桜が咲いている、もうその瞬間にしかない美

しさとか、日本の美や大切なものをととも。我々は普段太宰府に住んでいたたり、通い慣れていたりして気付かないことを外から来た方が、光として伝えてくれるものが、私は観光の原点だと思っております。そういったものをまた皆さんとこういう会議で共有して、太宰府市の大事な柱であるまちづくりビジョンや、観光の基本計画として残せていけたら、それこそ太宰府の財産になると思っております。また皆様もこれをご縁に、色々な形で繋がるができると思いますし、次の世代に渡せるように、また行政の方と取り組んでいきたいと思っております。

本日は貴重なご議論いただきました。どうもありがとうございました。では事務局にお返しいたします。

○事務局

(閉会挨拶)